

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950480010	
法人名	医療法人景雲会	
事業所名	グループホーム アゼリア	
所在地	甲州市勝沼町菱山中平4300	
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年3月2日 火曜日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが興味を持てる事や、能力を引き出すような事を、クラブ活動やレクリエーション活動として行っており、利用者の意見を聞き、遠足や外食等も楽しんでいます。また、地域交流を心がけ、イベントに参加したり、地域のボランティアの方と一緒に楽しんでいます。特に春のよもぎ饅頭作りや梅漬け、秋の干柿作り等には利用者の経験や恵を拝借し、毎年おいしい物ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は介護老人保健施設に併設された本館ユニットと隣接する短期入所生活介護の建物に併設された新館ユニットの2ユニットである。また、事業所は高台に有り甲府盆地を眼下に、南アルプス・秩父山系の山々が連なる風光明媚な環境である。職員はコロナ禍で外出の機会が大幅に減り、ともすれば単調になりがちな日常生活の改善を目指し、別館の入り口の共有スペース(アゼリアの丘)を有効活用し、歌を唄う・ゲームをする・身体を動かす等の機会を多く設け、入居者にとっても喜ばれている。毎年行なっている季節行事の継続と1年を通じての毎月の様々な行事・ミニ文化祭を行なう等、職員は入居者一人ひとりがその人らしく、安全・安心で笑顔あふれる日常生活が送れるような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに(コロナ禍以前) 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームアゼリア

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念のもと、方針・目標を明確にし、管理者と職員で話し合う機会を設け、地域交流を大切に、積極的に活動している。	左記同様	法人の理念の元、「利用者様と今よりもより深く関わる」「電話・パソコンのキーボード・取っ手等の清掃の徹底」の2つの年間目標を掲げ、事業腫内に提示し、業務改善会議や日々の申し送り現状確認を行ない、全職員の意志統一を徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一体として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため、絵手紙教室、小中学生、保育園、ボランティアとの交流ができない。	左記同様	自治会には加入していない。地域の情報収集は運営推進会議や広報で収集。ボランティアの受け入れ地域交流が出来ていない状況化で小学生からビデオレターを頂き入居者がお礼の手紙を届けた。今後はオレンジカフェへの参加も検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員間で話し合いの場は持っているが、実際にはまだそのような機会がないのが現状である。	左記同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の割合で開催しており、実際に取り組んだ内容や、今後の活動等について報告していましたが、新型コロナウイルス感染症対策の為、市役所介護支援課の方と相談しながら開催したり、文書での報告となっている。	左記同様	コロナ禍で市とは事業所の様子や取り組み状況の報告は電話や文章でのやり取りが中心である。運営推進会議で見ていただくために撮影したビデオは今入居者が見て楽しんでいる。フェースガードを設置しての面会を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは、連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、連絡、相談、報告にて情報交換している。	左記同様	市の担当者とは事業所の取り組み状況・報告は文章が中心であり、直接出向くことは現状出来ていない。市からコロナに関しての情報提供は電話であり、アドバイスも受けている。今後も今以上の関係継続に取り組んで行く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしない事を学習し理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	左記同様	外国人の実習生が入ったことから、アゼリア内で毎月個別に研修を行ったり、身体ケアを含め身体拘束・スピーチロックの事例検討会や言葉の言い換え表を配る等し、自分達の介護を振り返り全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持つ。集団研修会は現在は行えないため、アゼリアのみにて行っている。	左記同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず、理解・納得して頂けるよう説明し同意を得ている。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対し苦情処理に関する概要を提示している。また、利用者の意見も傾聴し不平不満等を受け入れ、ケアや運営に反映している。家族とは感染症対策の為、ライン面会をお勧めしたり、電話等で情報交換、意見を聞いている。	左記同様	年2回あった家族との面談も今は行なわれず、ラインや電話・毎月のアゼリア便りでの対応が中心である。また、入居者のお小遣い等の預り金を玄関先で受け取る際に話す機会があり、そこから得た意見・要望等はケアや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3密を避け、感染防止を行い、会議等で各職員と意見交換をする場を持ち反映させている。	左記同様	毎月の業務改善会議時に意見・要望・提案が話し合われている。その他、日常の業務中でも随時、意見・要望を聞き、今回、手すりがあれば立ち上げられる利用者の為、据え置き式手すりを購入しセットしたり、転倒のリスクの高い方の対応も検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で話し合いの場を持ったり、アゼリア内で勉強会等を実施する中で、職員が向上心を持って働く事ができるよう努めている。	左記同様		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーション及び新人教育の実施。通常ではその後、内部研修・外部研修への参加を促し、外部研修受講者は職員への伝達講習を必ず行うようにしている。現在外部研修は減少している。	左記同様		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており情報を得ている。協会においてもコロナウイルス感染症予防の為研修会は行われていない。	左記同様		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人と話をする機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に本人と話をする機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は可能な限り対応できる様に努めている。	左記同様		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	“共に生きる”“できない事をサポートする”等の視点で毎日支援している。人生経験豊富な利用者から多くの事を学んでいる。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においてオンライン面会のみとなっている。家族とは電話にて状況説明し、家族の希望を聞いたり本人への伝言を伝えている。	左記同様		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でできていない。	左記同様	本人の馴染みの人や馴染みの場所の把握は出来ているが、家族の面会もリモートの為、知人・友人の訪問もなく馴染みの場所に出掛けることも出来ていない。職員から声掛けし電話をかける、手紙の交換等行い、馴染みの関係継続が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支え合う事ができる様に、さりげない声かけや働きかけをしてサポートしている。	左記同様		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人及び家族から相談を受けた場合は必要に応じて対応している。	左記同様		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族が話し合うことは困難だが、職員を通じて、本人の意向に沿えるようしている。	左記同様	入居時・入居後、センター方式を活用し、丁寧一人ひとりの意向や想いの把握に努めている。今まで多角的な視点での意向の把握に努めていたがコロナ禍で困難となり、日頃の様子や表情から汲み取る・会話を多く取る等し、職員間で話し合い、本人の意向に沿う努力を行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族との面談を行い情報収集し、本人の把握に努めている。また、センター方式を活用している。	左記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等を活用して情報を共有し、利用者の現状を把握するよう努めている。	左記同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を第一に考えながら、家族の意見や要望を聞いたり、カンファレンスの中で職員が意見を出し合いながら検討し、作成している。	左記同様	入居時、本人・家族の希望・要望を聞き取り暫定プランを作成、入居から1～2週間様子観察・記録しミニカンファレンスを行ない、職員・本人・家族の意見を反映した本プランを作成。家族の同意を得てサービスをご提供している。状況に変化があれば医療機関と連携し随時プランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入し、情報の共有を行い、ケアや介護計画に反映している。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族のニーズに合わせ、職員が随時対応している。	左記同様		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の状況にて、地域やボランティア活動への参加はできていない。	左記同様		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医療機関や、近隣の総合病院等と連携をとり、いつでも相談できる様な体制が確保されている。また、かかりつけ医とも常に連携をとり、適切な医療を受けられる様支援している。	左記同様	3名の入居者が係りつけ医受診。通院は基本家族が行い、事業所から状態報告書を渡し、マスク使用・手洗い・消毒を徹底する旨伝えている。受診後は口頭・文章で報告を受け、情報は職員間で共有している。内科・歯科・皮膚科の医師が往診、適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健の看護師に相談する等して支援している。	左記同様		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は面会ができないため、家族や病院関係者と情報交換しながら、早期退院に向けて話し合いをしている。	左記同様		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで、そのような体制はとっていなかったが、現在、重度化した場合や、終末期におけるケアを行っていく方向で検討中である。	左記同様	現状看取りを行っていない為、入居時、事業所で対応出来る最大のケアについて説明し納得して頂いている。重度化は主治医が判断し、主治医・家族・ケアマネジャー・相談員を含め話し合いが行われ、同一法人内施設へ移行するケースが殆どである。終末期の在り方・看取りケアへの方向性も検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、普通救命の講習を受け、定期的に学習している。また、マニュアルを作成し、併設施設の看護師の指導の下、万が一事故が起きた場合には、それにとり対応できる様に学習している。	左記同様		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルがあり、日頃から職員同士で確認しあっている。また、年2回地元消防署の防災訓練及び指導を受けている。それ以外にも3ヶ月に一度の割合で防災訓練を行っている。	左記同様	地元消防署に年2回総合避難訓練(夜間)の指導を受け、訓練の様子をビデオ撮影し、研修で検証その後の訓練に活かしている。アゼリア独自で3か月に1回夜間中心の防災訓練・緊急連絡網での確認も合わせて行っている。家族・地域消防団との協力体制も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あくまでも、利用者は人生の先輩であるという事を念頭に置き、言葉遣い等に気を配り、その場の状況を見て言葉かけや対応をしている。	左記同様	海外の実習生がいるので、行動制限をするような声掛けをせず、入居者一人ひとりのその時々気持ちに寄り添えるような言葉かけの指導を全職員に行なっている。入室の出入りは必ずノックをする。失禁時・入浴時羞恥心に配慮し目立たずさりげなく関わる等、職員同志注意し合える環境である。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に意見や希望等表す事ができる雰囲気作りを心がけている。	左記同様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、一緒に過ごす時間を多く持ち、共に生活を楽しむ中で、希望に沿う様支援している。	左記同様		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室を利用して頂いている。希望の髪型等に対応できるよう支援している。	左記同様		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理を行っている。また、職員も利用者と共に食事をとり楽しく過ごしている。	左記同様	業者から届くモバイル食事(真空パックを温める)に職員が手を加えている。入居者はお茶の準備・テーブル拭き・配膳・下膳を手伝う等持てる力を活かす支援をしている。イベント時には寿し・ケーキ等を購入する、クレープを作る等入居者は楽しい一時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量等一人ひとり把握し記録している。	左記同様		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ等行い、口腔ケアを促し、一人ひとりに合わせた方法で支援している。	左記同様		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックして、さりげない声かけや誘導を行っている。	左記同様	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく個別誘導を行ない、個々にバットの使用を変える等、職員間で統一を図っている。本館は居室にトイレが有り羞恥心への配慮が出来ている。新館はその時々状況に応じた配慮を心掛け、自尊心を損なわないよう努めながら2ユニット共に自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事前に、利用者全員がラジオ体操を行い、牛乳を飲む事を日課としており、食物繊維や乳酸菌を含む食品を多く摂り入れる工夫をしている。また、レクリエーションでも適度な運動を行う等して、便秘予防を図っている。	左記同様		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入れる様に配慮し、入浴を楽しめる事ができる支援をしている。	左記同様	何時でも入浴できる準備が出来ていて週2~3回入浴している。入浴を嫌がる場合は職員を変える・時間を変える・入浴日を変える等の対応を行っている。季節の菖蒲湯・柚子湯・入浴剤などで気分転換を図る、季節の話をする等楽しく安全に配慮した入浴と成るように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活が活動的になる様に働きかけ、安眠できる様支援している。眠れない時は温かい飲み物を提供したり、話し相手になる等して眠れる環境を作っている。	左記同様		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の作用や副作用、用法等を個人ファイルに綴り、全ての職員が情報を共有した上で服薬の支援をしている。また、必要に応じて提携病院の薬剤師に相談できる体制も整えている。	左記同様		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人及び家族から、これまでの生活歴を聞く等し把握した上で、過去の経験を活かして得意な事に力を発揮する事ができる様支援している。	左記同様		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の畑を見に行ったり、近所を散歩したり、敷地内で可能なレクリエーションを工夫している。	左記同様	コロナ禍でドライブ・外出の機会が中止となっていることから、事業所の中で過ごすことがない様に敷地内の畑を見に行く、庭の3か所のベンチに座り外気浴や会話を楽む等自然と触れ合う機会を出来る限り設けている。毎月の行事やミニ文化祭・数字合わせ・漢字合わせ・編み物等のレクリエーションも多く取り入れ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、現在買い物に出掛けることはしていない。	左記同様		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と散歩がてらポストに手紙を出しに行ったり、公衆電話がある場所まで行き、本人自ら電話をしている。また、携帯電話を所持している利用者もいる。	左記同様		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度な明るさを保ち、テレビやBGMの音量も気にならない大きさに配慮している。	左記同様	別棟にある両ユニット共に空調管理が出来ている。共有空間は採光やBGMの音量に配慮した居心地のよい環境である。対面式のキッチンからは共有空間が見渡せ自然な中での見守りが出来ている。2~3人でゆったりと寛げる別空間もある。また、季節を感じられる入居者の創作品が壁に貼っており、心を和ませる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室やベランダがある。また、外にはベンチが置いてあり、一人ひとりの時間を過ごしている。	左記同様		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品を持って来て頂き、本人及び家族と相談しながら、配置場所も考慮している。	左記同様	両ユニット共にベッド・防火カーテン・エアコン・洗面台が備え付けてある。本館ユニットには各居室にトイレがある。馴染みの衣装ケースや家族写真・有名な絵画を壁に飾る・ベッドの向きを変える・テレビ等自由に配置してあり、それぞれ心安らぐ居心地のよい居室と成っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等に手すりを設置し、流し台や物干し等の高さも使い易い様に工夫している。	左記同様		